



第39回

# 気持ちを詳しく伝えよう

～ that の後で詳しく言う～

## 学習のポイント

- thatの後でうれしい理由が言える
- thatの後で心配な理由が言える

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

## ■コミュニケーション

日本語では、「大学の入学試験に合格してうれしいです」「好きなテレビドラマが終わってがっかりです」などという言い方を普通にします。

大学の入学試験に合格して うれしいです。

好きなテレビドラマが終わって がっかりです。

まず事実を言って、それに対して自分がどう感じているのかを後から付け加えるという順番を取ります。ところが英語では、反対に、

I am happy that I passed the college entrance exams.

I am disappointed that my favorite TV drama was over.

というように、まず自分の気持ちを言い、その後にはthatを付け、なんでそう感じるようになったかその理由を付け加えます。このhappyやdisappointedはどれも気持ちを表現する語ですが、これ以外にも、I am surprised that「～に驚いた」、I am afraid that「～を心配している」、I am worried that「～を心配している」、I am glad that「～でうれしい」、I am sure that「～に関して確信している」、I am satisfied that「～に満足している」、I am sorry that「～をすまなく思っている」、I am shocked that「～に衝撃を受けている」、I am sad that「～を悲しく思っている」などがよく使われます。以下に、具体的な文例を挙げておきます。ぜひ、使ってみてください。

I am surprised that ～ [あることに驚いたときに使う一般的な表現]

I was surprised that Naomi ate four hamburgers for lunch.

(直美がお昼にハンバーガーを4つも食べたことには驚いた)

Are you surprised that I asked such a question?

(私がこんな質問をして驚きましたか?)

I am afraid that ～ [何か気になることがあるときによく使う表現]

I am afraid that we are about 10 minutes late.

(私たちは10分ほど遅れているように思いますが…)

We were all afraid that the computer system broke down.

(私たちは皆、コンピューターシステムがダウンしたのではと危惧した)

I am worried that ~ [何か心配なことがあるときに使う表現]

Are you worried that Hina will get sick?

(日梨が病気になりはしないかと心配しているの?)

Ryo was worried that he did not have enough money.

(亮はお金が足りないんじゃないかと心配でした)

I am glad that ~ [何か喜ばしいことがあるときに使う表現]

Naomi is glad that Naomi Theatre Company is very popular.

(直美はNAOMI座がとても人気があることをうれしく思っている)

Aren't you glad that you will get a pay raise?

(給料が上がるなんていいじゃない?)

I am sure that ~ [確信があるときに使う表現]

Are you sure that you don't want to eat this cake?

(本当にこのケーキを食べたくないんですか?)

We are not sure this is the best way to do it.

(私たちは、この方法が一番いいのか確信が持てません)

I am satisfied that ~ [満足しているときに使う表現]

My parents are very satisfied that I got straight A's.

(私の両親は私がオール5を取ったので大変満足している)

Is Philip satisfied that his performance was highly evaluated?

(フィリップは自分の演技が高く評価されて満足しているのかい?)

I am sorry that ~ [申し訳なく思っているときに使う表現]

I am sorry that I was not able to attend your birthday party.

(君の誕生日会に出られなくてゴメン)

We are sorry that your grandfather passed away.

(おじいさんがお亡くなりになって残念に思っています)

I am shocked that ~ [あることに強い衝撃を受けているときに使う表現]

Everyone is shocked that the castle was heavily damaged.

(お城がひどく壊れたのには皆が衝撃を受けている)

Parents are shocked that such a terrible incident happened in the community.

(親たちは、近所でこのようなひどい事件が起こってショックを受けている)

I am sad that ~ [何かに悲しんでいるときに使う表現]

We are so sad that we have to close the restaurant soon.

(レストランをもうすぐ閉じなければならないのは悲しいです)

Hina was sad that her dog was killed in the traffic accident.

(日梨は飼っていた犬が交通事故で死んで悲しがっていた)

### ■単語や表現

#### want

この語は、「～がほしい、～がしたい」という意味でよく使われますが、日本語と英語では使い方が若干異なります。よく英語では、**Do you want coffee?** あるいは **Do you want to drink coffee?** と言ってコーヒーをすすめます。これを直訳すると、「コーヒーがほしいですか?」「コーヒーが飲みたいですか?」となりますが、これは日本語ではいささか奇異に聞こえます。このようなときに、日本語では「コーヒーはいかがですか?」「コーヒーをお飲みになりますか?」と聞くことが一般的です。英語では相手の要望や欲求を聞き、それを満たしてあげるのが礼儀や丁寧さにつながります。一方、日本語では相手の要望や欲求を直接英語のように聞くのは失礼に当たり、このような場合には相手の気持ちをおもんぱかったり、聞くにしても要望や要求ではなく、意思や意向を聞くという表現を用いることが礼儀にかなうようです。

番組でも、直美がひいおばあさんが大事にしていた万年筆をフィリップにあげるシーンがあります。そのときフィリップは、

**Are you sure you want to give this to me?**

と聞いています。これを直訳して「あなたはこれを私にあげたいですか?」としては、英語の本当の意味が通じません。やはりここは「本当にこれをくれるの?」あるいは、「このような大切な物、本当にいいんですか?」「私がこのような大事なものをいただいてよろしいのですか?」と訳するのが適当でしょう。

このように、英語も日本語も相手をおもんぱかる気持ちが同じであっても、その気持ちを表す表現方法が異なることがあります。この辺が異言語、異文化コミュニケーションの難しくもおもしろいところです。

#### such

この語は、「このような」という意味で、目の前にある物を指して、その特徴を強調するときに使います。番組で、直美が日梨に高価なネックレスをあげるシーンがあります。そのときに日梨は、

**I am happy that you are giving me such an expensive necklace.**

(こんなに高価なものをもらえるなんてすごくうれしい!)

と言って喜びます。もちろん、**I am happy that you are giving me an expensive necklace.** と言ってもいいのですが、**such**を付けると、ネックレスを直接指し示して「こんなに高価なネックレス」という強調の意味が伝わります。

## ■英語のきまり

この回では、合計で11個の「気持ちを詳しく伝える表現」を紹介していますが、これらの11の表現は大きく2つに分けることができます。最初のグループは、**happy**、**sure** や **sad** などの語を使っている表現です。これらの語は、私たちがどのような気持ちなのかを表しており、**that** の後で、なぜ私たちはそのような気持ちになっているのかを詳しく説明することができます。

もう1つのグループは、**disappointed**、**surprised** や **worried** のように最後が **ed** で終わっているグループです。これらの語は、もともとは動きを表す語でした。例えば、**surprised** ですが、これは **surprise** 「驚かせる」という意味の動きを表す語でしたが、それが受け身で使われて、「驚かされた」という意味になり、**happy**、**sure** や **sad** と同じように「驚いている」という気持ちを表す語として使われるようになりました。

Don't surprise me. (驚かさないでよ)

I am surprised. (驚かされた=驚いた)

I am surprised that you won the lottery. (君が宝くじに当たるなんて驚きだ)

